

第29回National Space Symposium参加報告

三菱電機株式会社 宇宙システム事業部
小山 浩

第29回National Space Symposiumが2013年4月8日～12日米国コロラドスプリングにて開催された。今回、基調講演Japan's New Basic Plan on Space PolicyにおけるFeatured Speakerとして、また、Space Agency Leaders及びLong Term Sustainability of Spaceのパネリストとして日本からの参加者が登壇した。日本の宇宙開発計画の最新状況が紹介された他、今後の宇宙開発の方向性に関し、討議がなされた。昨年に引き続き、宇宙研究開発機構(JAXA)が日本ブースを設置。JAXA及び宇宙関係5社の展示に加え、イベントとしてJAPAN HOURSを開催。日本の宇宙活動を紹介するとともに、各社紹介のプレゼンが行われた。

National Space Symposiumは米国内最大の宇宙関係の会議であり、内容的には宇宙政策的なテーマが主流となっている。業界関係者が多数集まることから、展示規模も大きく、宇宙関係主要各社が自社の最新の製品・技術、主力製品の紹介を軸に展示を行っている。今回は30カ国以上より約9000人が参加した。

宇宙システム整備の効率化のため、今後の政府系ミッションに関し、ペイロードのみの費用を政府が負担し、衛星、ロケットは別プロジェクトで負担する仕組みが検討されている。

今回のシンポジウムにおける一つのキーワードはHOPS(Hosted Payload Solutions)。宇宙システム整備の効率化のため、今後の政府系ミッションに関し、ペイロードのみの費用を政府が負担し、衛星、ロケットは別プロジェクトで負担する仕組みが検討されている。今後の軍・官のミッション(静止、周回含む)をHostedで実現するものであり、その相乗りを含めた提案を要請している。このためHosted Payload Conferenceも開催され、特に、通信オペレータの参画を募っている状況である。

本シンポジウムの主要な講演は下記HPにて見ることができる。

<http://www.nationalspacesymposium.org/media/videos>



図1 基調講演、パネルディスカッションの様子

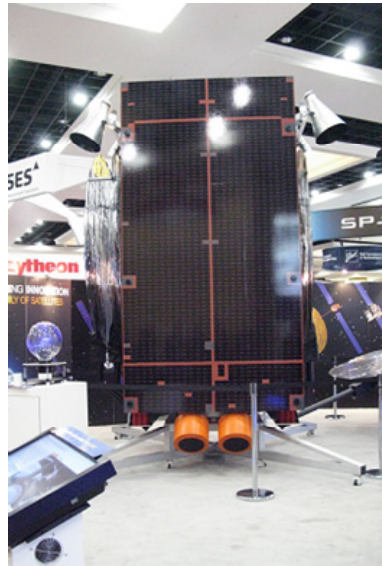


図2 展示会場の様子

(左よりLockheed Martin社のブース、Boeing社ブース(オール電化衛星(702SP)実物大モックアップ)、Northrop Grumman社ブース)

展示においては、Lockheed Martin社が、同社の100年の歴史を大々的にアピール。同社は、展示会場についてもLockheed Martin Exhibit Center / Lockheed Martin Exhibit Center Pavilionと同社の名前を冠した施設を所有している。Boeing社では話題のAll電化衛星が注目を集めていた。

次回、第30回National Space Symposiumは2014年5月19日～22日、コロラドスプリングス同会場での開催が予定されている。■



図3 JAXA JAPAN HOURの様子